

令和 3年度 事務事業マネジメントシート

事業の基本情報				
事務事業名		介護認定審査会経費		担当課 介護福祉課
総合計画	政策	健やかに暮らせるまち		計画期間 平成12年度～
	施策	高齢者福祉の推進		種別 法定事務
	基本事業	介護保険の適切なサービス提供		市民協働
予算科目コード		04-010301-01 単独	根拠法令・条例等	介護保険法第14条

なぜ、この事業を実施しているか？ 何をどうするための事業か？	
背景（なぜ始めたのか）	内容（何の業務活動をどのような手法で行うか） 介護認定審査会を月6回開催し、要支援・要介護認定申請者に対する認定調査及び主治医意見書に基づき、介護の必要性（要介護度等）について申請日から30日以内を目途に審査・判定を行う。 保健・福祉・医療の学識経験者から各分野のバランスに配慮した人員をもって構成している。
目的及び期待する効果（誰（何）をどうしたいのか）	
介護認定審査会において、迅速かつ公正・公平な要介護等の審査及び判定を行い、市民の適切な介護サービスの利用に繋げることを目的とする。	
（参考）基本事業の目指す姿	
要支援・要介護認定者に対して、適切なサービスを提供する。	

事業の課題認識，改善の視点（次年度にどう取り組むか）	
目的達成のための課題（問題点，現状分析，課題設定）	具体的内容とスケジュール
申請件数の増加及び内容の複雑化に伴い，申請から結果判定までの期限を1か月とする規定の厳守が難しくなっている。	5月～6月 他市町村の状況調査 7月 事務局案①の策定 8月 審査会委員へ事務局案①を提示・意見集約 9月 事務局案②の策定。審査会委員への提示 10月 内部規定策定
改善内容(課題解決に向けた解決策)	
認定期間の延長を審査会委員に周知し，適宜適用させることで，認定終了期日の分散を図る。	
次年度のコストの方向性（→その理由）	
■ 増加 □ 維持 □ 削減	要介護認定判定のために必要な経費である。

R02年度の評価（課題）を受けて、どのように取り組んだか（R03年度の振り返り）	
R02年度の評価（課題）	R03年度 of 取組（評価、課題への対応）
介護保険法において、認定申請から30日以内に審査判定を行うことと規定されており、迅速な審査会運営が求められる。	・新型コロナウイルス感染症予防のため、緊急事態宣言、蔓延防止措置、茨城県コロナ対策指標等の内容により、介護認定審査会を書面審査で実施した。 ・国の通知により、新型コロナウイルス感染症予防のため、更新申請で認定調査を行わずに認定期間の延長（最大12か月）を実施した。 ・令和3年10月から審査会資料をペーパーレス化し、タブレットへのデータ配信を開始したことから、紙資料及び審査会資料の準備に係る時間を削減することができた。

評価（指標の推移、今後の方向性）							
指標名	基準値（H26）	H29年度	H30年度	R01年度	R02年度	R03年度	目標値（R03）
審査件数に占める申請日から３０日以内に判定が行えた割合（％）	23.50	6.35	1.59	2.46	4.26	6.84	14.70
県介護保険審査会に対する審査請求件数（件）	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
成果の動向（→その理由）							
☐ 向上 ☒ 横ばい ☐ 低下	昨年度に引き続き、国の通知により、新型コロナウイルス感染症予防のため、職権で認定期間を最大12か月延長できたことから、コロナ禍前よりは認定審査件数は減少した。						
今後の事業の方向性（→その理由）							
☐ 拡大 ☐ 縮小 ☒ 維持 ☐ 改善・効率化 ☐ 統合 ☐ 廃止・終了	令和3年度の制度改正により、認定期間が最大48か月となったことを適正に活用し、更新申請件数の分散化を図る。 認定調査員の人数次第で審査結果に要する期間に影響が出るため、適正な調査員確保に努める。 これらにより、申請から30日以内に審査が行えるように努めていく。						

コストの推移						
項目		R01年度決算	R02年度決算	R03年度決算	R04年度予算	R05年度見込
事業費	計	15,669	13,648	16,076	19,294	19,294
	国・県支出金	0	0	0	0	0
	地方債	0	0	0	0	0
	その他	15,669	13,648	16,076	19,294	19,294
	一般財源	0	0	0	0	0
正職員人工数（時間数）		1,457.00	913.00	908.00	1,093.00	1,093.00
正職員人件費		5,978	3,696	3,513	0	0
トータルコスト		21,647	17,344	19,589	19,294	19,294

令和 3年度 事務事業マネジメントシート

事業の基本情報				
事務事業名		認定調査経費	担当課	介護福祉課
総合計画	政策	健やかに暮らせるまち	計画期間	平成12年度～
	施策	高齢者福祉の推進	種別	法定事務
	基本事業	介護保険の適切なサービス提供	市民協働	
予算科目コード		04-010302-01 単独	根拠法令・条例等	介護保険法第27条第2項

なぜ、この事業を実施しているか？ 何をどうするための事業か？	
背景（なぜ始めたのか）	内容（何の業務活動をどのような手法で行うか） 認定調査員が要支援・要介護認定申請者を訪問し、身体機能、生活機能、認知機能、精神・行動障がい等の分野において介助の状況や有無について調査をし、介護認定審査会の基礎資料となる認定調査票を作成する。
介護保険法の施行（平成12年4月）により、要介護等認定を受けようとする被保険者は、市町村に申請しなければならない（法第27条第1項及び第32条第1項）。市町村は申請のあった被保険者の要介護認定調査を行うこととされている（法第27条第2項及び第32条第2項）。	
目的及び期待する効果（誰（何）をどうしたいのか）	
介護認定審査会において要支援・要介護認定を審議・判定するための基礎資料を作成することを目的とする。 認定調査員を雇用し、訪問調査の体制を整備することで、迅速・適正な認定を行う。	
（参考）基本事業の目指す姿	
要支援・要介護認定者に対して、適切なサービスを提供する。	

事業の課題認識、改善の視点（次年度にどう取り組むか）	
目的達成のための課題（問題点、現状分析、課題設定）	具体的内容とスケジュール
年々軽度認定者の割合が増加している状況にある。軽度認定者の調査については、調査項目において、聞き取りや動作についての状況判断が難しいことが多く、調査票の作成時間が増加している。 また、がんの末期状態にある方について、国の通達で迅速に要介護認定の実施を行うこととされており、申請後速やかに認定調査を行うことが重要となっている。	随時 ・速やかに調査を行えるよう、適正な人員を確保する。 ・県で開催する認定調査員現任研修の参加 ・定期的に様々な事例について、情報共有できるようにしていく。
改善内容（課題解決に向けた解決策）	
公平、公正な認定調査が迅速にできるようにし、認定調査員としての知識・技能を向上させる機会を確保していく。また、調査員の適正な人員確保と調査員間の情報共有をしていく。	
次年度のコストの方向性（→その理由）	
☐ 増加 ☒ 維持 ☐ 削減	要介護認定の新規申請については、認定調査を市が直接行うこととされているため、認定調査に要する経費は廃止することはできない。

R02年度の評価（課題）を受けて、どのように取り組んだか（R03年度の振り返り）	
R02年度の評価（課題）	R03年度の実績（評価、課題への対応）
軽度認定者の調査については、調査項目において、聞き取りや動作についての状況判断が難しいことが多く、調査票の作成時間が増加している。 また、がんの末期状態にある方について、国の通達で迅速に要介護認定の実施を行うこととされており、申請後速やかに認定調査を行うことが重要になっている。	・判断が難しい案件に対しては、調査員同士で連携を深め、多角的な見方を行い調査票の作成に努めた。 ・がん末期状態にある方についての調査は、認定調査の日程調整を行い、速やかに認定調査ができる環境を整えた。

評価（指標の推移、今後の方向性）							
指標名	基準値（H26）	H29年度	H30年度	R01年度	R02年度	R03年度	目標値（R03）
介護認定調査件数（件）	1,638.00	1,669.00	1,513.00	1,913.00	1,394.00	1,636.00	2,040.00
	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
成果の動向（→その理由）							
■ 向上 □ 横ばい □ 低下		・新型コロナウイルス感染症予防により、認定調査を実施せず認定期間を延長することができたことから、認定調査件数はコロナ禍前よりは減少していたが、令和2年度よりは増加傾向にある。感染対策をすることで、新規及び区分変更申請を含めた認定申請で調査員と対面することに抵抗が少なくなったと考えられる。					
今後の事業の方向性（→その理由）							
■ 拡大 □ 縮小 □ 維持 □ 改善・効率化 □ 統合 □ 廃止・終了		令和2年度から新型コロナウイルス感染症予防のため、認定調査を実施せず、令和3年度に認定期間を延長した被保険者が今年度認定期間満了となる。そのため、令和4年度は更新申請の対象者が増加することが見込まれる。					

コストの推移						
項目		R01年度決算	R02年度決算	R03年度決算	R04年度予算	R05年度見込
事業費	計	15,230	17,096	18,608	25,827	25,827
	国・県支出金	0	0	0	0	0
	地方債	0	0	0	0	0
	その他	15,230	17,096	18,608	25,827	25,827
	一般財源	0	0	0	0	0
正職員人工数（時間数）		516.00	345.00	414.00	425.00	425.00
正職員人件費		2,117	1,397	1,602	0	0
トータルコスト		17,347	18,493	20,210	25,827	25,827

令和 3年度 事務事業マネジメントシート

事業の基本情報					
事務事業名		介護予防把握事業		担当課	健幸長寿課
総合計画	政策	健やかに暮らせるまち		計画期間	平成19年度～
	施策	高齢者福祉の推進		種別	法定事務
	基本事業	介護保険の適切なサービス提供		市民協働	
予算科目コード	04-030201-01 補助		根拠法令・条例等	・平成18年4月改正介護保険法 ・平成29年4月一般介護予防事業（法第115条の45第1項第2号）	

なぜ、この事業を実施しているか？ 何をどうするための事業か？

背景（なぜ始めたのか）	内容（何の業務活動をどのような手法で行うか）
平成18年4月の介護保険制度改正に伴い、要支援・要介護状態となるおそれの高い状態にある何らかの支援を要する高齢者を早期発見し、介護予防に資する取組みにつなぐことを目的として開始した。 平成29年4月の介護予防・日常生活支援総合事業開始により、介護予防事業から一般介護予防事業に組替えて実施している（法第115条の45第1項第2号）。	介護保険申請が増える年代より前の年代を対象に基本チェックリストなどを活用し、何らかの支援を要する高齢者を把握し、分析結果表と個々の状態に応じた介護予防の資料を送付する。また、対象者の把握については、総合相談など他の事業と連携する。対象者に対しては、保健師・管理栄養士・歯科衛生士等が訪問・電話をし、生活状況や身体状況を確認して介護予防事業の利用を促す。
目的及び期待する効果（誰（何）をどうしたいのか）	
65歳以上の高齢者の中から特定高齢者（要支援・要介護状態になる恐れのある虚弱な高齢者）を把握し、介護予防活動へつなげる。	
（参考）基本事業の目指す姿	
要支援・要介護認定者に対して、適切なサービスを提供する。	

事業の課題認識、改善の視点（次年度にどう取り組むか）

目的達成のための課題（問題点、現状分析、課題設定）	具体的内容とスケジュール
介護予防の効果的な介入をするために75歳及び79歳に基本チェックリストを実施し、対象者を把握している。今後は対象年齢の検討及び基本チェックリスト以外の方法で把握をしていく必要がある。 介護予防事業対象者に対しては、適切に介護予防事業やその他支援につないでいく。	① 基本チェックリスト返送のあった介護予防事業該当者に対し、訪問を原則として身体・生活状況を把握し、必要な介護予防事業につなげていく。 7月～ 8月 基本チェックリスト発送・回収 9月～11月 結果発送、介護予防事業対象者に訪問・把握 ② 基本チェックリスト未返送者の把握 11月～1月 未返送者への訪問・把握 ③随時 基本チェックリスト以外の対象者把握（民生委員、地域住民等）
改善内容（課題解決に向けた解決策）	
① 介護予防事業と連動を考慮した基本チェックリストの発送時期の検討 ② 地域情報が民生委員等から入りやすい仕組みづくり	

次年度のコストの方向性（→その理由）

☐ 増加 ☐ 維持 ☐ 削減	
---	--

R02年度の評価（課題）を受けて、どのように取り組んだか（R03年度の振り返り）	
R02年度の評価（課題）	R03年度を取組（評価、課題への対応）
コロナ禍のため介護予防事業（教室開催等）を実施することが難しくなったため、地域包括支援センターとの協働により75歳から79歳の一人暮らし高齢者に「フレイル予防訪問」を実施して支援の必要な高齢者の把握とフレイル予防の周知を行った。訪問の結果で支援が必要な高齢者に対して地域包括支援センターが個別に支援を行った。	75歳と79歳の方に基本チェックリストを実施して、それぞれ結果に基づいた介護予防のための情報提供をおこなった。把握された介護予防事業対象者に対しては、電話等で状態の把握を行い必要な介護予防の事業等につなげた。

評価（指標の推移、今後の方向性）							
指標名	基準値（H26）	H29年度	H30年度	R01年度	R02年度	R03年度	目標値（R03）
65歳以上の高齢者数（人口）4月1日（人）	12, 289. 00	13, 823. 00	14, 493. 00	15, 022. 00	15, 571. 00	16, 076. 00	16, 076. 00
基本チェックリスト等の結果、特定高齢者となった割合（％）	30. 00	41. 16	14. 34	17. 10	8. 00	21. 70	18. 00
成果の動向（→その理由）							
☐ 向上 ☒ 横ばい ☐ 低下	75歳と79歳の方に基本チェックリストに基づき介護予防のための情報提供をおこなった。また把握された介護予防事業対象者に対しては、電話等で状態の把握を行い必要な介護予防につなげた。						
今後の事業の方向性（→その理由）							
☐ 拡大 ☐ 縮小 ☒ 維持	☐ 改善・効率化 ☐ 統合 ☐ 廃止・終了	新型コロナウイルスの影響による活動量の低下、フレイル状態が進んでいることが懸念されている。そのため心身の機能低下がみられる対象者の把握と介護予防事業につなげていくことが必要となる。また、基本チェックリストによる把握以外でも、地域包括支援センターや民生委員、関係課との連携を強化し高齢者の心身状態の把握に努めていく。					

コストの推移						
項目		R01年度決算	R02年度決算	R03年度決算	R04年度予算	R05年度見込
事業費	計	1,634	94	1,655	2,358	2,358
	国・県支出金	531	57	1,001	766	766
	地方債	0	0	0	0	0
	その他	645	37	654	930	930
	一般財源	458	0	0	662	662
正職員人工数（時間数）		194.00	82.00	464.00	0.00	0.00
正職員人件費		796	332	1,795	0	0
トータルコスト		2,430	426	3,450	2,358	2,358

令和 3年度 事務事業マネジメントシート

事業の基本情報				
事務事業名		介護予防普及啓発事業		担当課 健康長寿課
総合計画	政策	健やかに暮らせるまち		計画期間 平成18年度～
	施策	高齢者福祉の推進		種別 法定事務
	基本事業	介護保険の適切なサービス提供		市民協働
予算科目コード		04-030201-02 補助	根拠法令・条例等	改正介護保険法

なぜ、この事業を実施しているか？ 何をどうするための事業か？	
背景（なぜ始めたのか）	内容（何の業務活動をどのような手法で行うか） 1 介護予防、日常生活動作を維持向上するための情報を広報紙とホームページに掲載する。 2 介護予防に資する基本的な知識を普及啓発するための有識者等による講演会を開催する。 3 栄養改善・口腔ケア・介護予防等に関するパンフレットを作成し、出前講座においてシニアクラブやサロンの参加者等に配布、説明する。 4 介護予防事業対象者に対し、運動や栄養、口腔ケア等の介護予防教室を実施する。 5 介護予防の普及啓発に資する介護予防教室等を開催する。 ・生きがい活動支援通所事業（げんき館） ・シルバーリハビリ体操 ・健康指導教室（運動機能向上プログラム） ・あおぞら運動教室等
目的及び期待する効果（誰（何）をどうしたいのか）	
65歳以上の高齢者に介護予防に関する知識を得てもらい、介護予防を意識した生活を送ることで、日常生活動作の維持向上が期待できる。	
（参考）基本事業の目指す姿	
要支援・要介護認定者に対して、適切なサービスを提供する。	

事業の課題認識、改善の視点（次年度にどう取り組むか）	
目的達成のための課題（問題点、現状分析、課題設定）	具体的内容とスケジュール
介護予防に関する広報やイベント、講座や教室等で知識の普及を実施しているが、高齢者の生活にいかされ効果を上げているか、事業の効果について評価していく必要がある。 また、事業の効果を上げるために、地域課題を把握していく必要がある。	R2 3月～ 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査の分析・まとめ 通年：運動リハや食事等の介護予防講座・イベント等の実施 げんき館・ミナードにおいて生きがい活動支援通所事業の実施 継続的に介護予防に関する知識の普及により、要介護状態にならないように自主的に介護予防の意識を持って行動するため、継続的な実施が必要となる。
改善内容（課題解決に向けた解決策）	
令和元年1月に実施した介護予防・日常生活圏域ニーズ調査の集計及び分析結果から地域課題の把握、事業企画をする。	
次年度のコストの方向性（→その理由）	
☐ 増加 ☐ 維持 ☐ 削減	

R02年度の評価（課題）を受けて、どのように取り組んだか（R03年度の振り返り）	
R02年度の評価（課題）	R03年度を取組（評価、課題への対応）
新型コロナ感染拡大防止のため、サロン活動の休止や縮小を行った。また、介護普及啓発活動を積極的に実施することができなかったため、フレイル予防に関する出前ミニ講座として、運動、栄養改善、口腔ケアを企画し、再開したサロンで実施した。 フレイル予防啓発のチラシの全戸配布、広報紙に掲載、YouTube配信を行い、フレイル予防の基本的な知識の普及啓発を行ったが、より多くの高齢者の方に普及啓発する周知方法の検討が必要である。	サロン、シニアクラブを中心に、30分程度のミニ講座（運動、栄養改善、口腔ケア）やD Kエルダー（音楽や映像を使ったコンテンツで介護予防を行う機器）を用いて、介護予防に資するプログラムを実施した。また、屋外での活動を促し、運動習慣の獲得を図る目的であおぞら運動教室を実施した。感染対策をしながら、介護予防普及啓発活動を実施したため、介護予防教室の参加人数は昨年と比べ増加したが、コロナ禍以前の人数には戻っていない。

評価（指標の推移、今後の方向性）							
指標名	基準値（H26）	H29年度	H30年度	R01年度	R02年度	R03年度	目標値（R03）
講演会・出前講座等の開催回数（回）	88.00	79.00	73.00	71.00	32.00	77.00	65.00
講演会・出前講座等の参加者数（人）	1,354.00	1,270.00	1,167.00	1,069.00	344.00	657.00	885.00
成果の動向（→その理由）							
☐ 向上 ☒ 横ばい ☐ 低下	新型コロナウイルスの感染拡大のため、サロン活動を休止した期間があったが、サロン、シニアクラブを中心にDKエルダーを導入したり出前ミニ講座を継続して行った。また、屋外活動の後押しや運動習慣のきっかけづくりのため、あおぞら運動教室（公園の運動器具を使った運動教室）を地域で開催した。しかしながら、コロナ禍以前のような、参加人数には至っていない。						
今後の事業の方向性（→その理由）							
☒ 拡大 ☐ 縮小 ☐ 維持	☐ 改善・効率化 ☐ 統合 ☐ 廃止・終了	新型コロナウイルス感染症の影響を受け、高齢者の活動量が低下しつつあるなか、多くの高齢者が参加する介護予防事業（フレイル予防）を地域で展開していく必要がある。フレイル予防啓発のチラシや教室等で、より多くの高齢者にフレイル予防を啓発する。					

コストの推移						
項目		R01年度決算	R02年度決算	R03年度決算	R04年度予算	R05年度見込
事業費	計	17,727	19,792	20,714	25,146	25,146
	国・県支出金	5,761	11,974	12,286	8,173	8,173
	地方債	0	0	0	0	0
	その他	7,002	7,818	8,182	9,933	9,933
	一般財源	4,964	0	246	7,040	7,040
正職員人工数（時間数）		1,073.00	1,650.00	1,755.00	0.00	0.00
正職員人件費		4,403	6,679	6,790	0	0
トータルコスト		22,130	26,471	27,504	25,146	25,146

令和 3年度 事務事業マネジメントシート

事業の基本情報					
事務事業名		地域介護予防活動支援事業		担当課	健康長寿課
総合計画	政策	健やかに暮らせるまち		計画期間	平成12年度～
	施策	高齢者福祉の推進		種別	法定事務
	基本事業	介護保険の適切なサービス提供		市民協働	
予算科目コード		04-030201-03 補助	根拠法令・条例等	改正介護保険法	

なぜ、この事業を実施しているか？ 何をどうするための事業か？	
背景（なぜ始めたのか）	内容（何の業務活動をどのような手法で行うか）
平成18年4月から改正介護保険法が施行され、改正法に基づき事業を開始した。 高齢化の進む状況において、人生最期の時まで自立した生活ができるよう、高齢者の社会参加の機会及び生きがいの創出が必要となっている。また、健康で活動的な生活が継続できるよう、高齢者自身が社会の担い手になる仕組みづくりや活動の場づくりが必要である。	介護予防のための地域ボランティアを活用した介護予防の推進を図り、介護予防講座を開催、地域住民への活動の場の提供などの支援活動を行う。 1 脳わくわくし隊など認知症を支える人材の育成講座を実施する。 2 低栄養のための特定高齢者になりやすい一人暮らしの高齢者に対して、介護予防に対する知識を深め、自主的に実践できるよう支援する。 3 高齢者介護保健施設ボランティアポイント制度を実施する。 ボランティア登録をしている高齢者が、受入施設の登録をした介護保険施設で行ったボランティア活動に対してポイントを付与し、申請によりポイントを換金し還元する。
目的及び期待する効果（誰（何）をどうしたいのか）	
高齢者の介護予防の取組を住民が主体となり、地域で活動できるよう支援することを目的としている。 高齢者がボランティア活動を通して積極的に社会参加し、地域貢献することを奨励するとともに、高齢者の自発的な介護予防を促進（将来的な介護給付費の抑制）する。	
（参考）基本事業の目指す姿	
要支援・要介護認定者に対して、適切なサービスを提供する。	

事業の課題認識、改善の視点（次年度にどう取り組むか）	
目的達成のための課題（問題点、現状分析、課題設定）	具体的内容とスケジュール
①現在サロンの担い手であるサロン運営ボランティア等は活発に活動していただいているが、高齢化している現状である。また、認知症を支える人材の養成講座を実施しているが、担い手が減少傾向にあり、将来的な視点でボランティアを養成していく必要がある。 ②高齢者の社会参加や地域貢献目的の介護支援ボランティア等について、周知を強化し、参加者を増やしていく必要がある。	①通年 脳活コーチ定例会やフォローアップ研修会等での意見交換，アンケート実施。 ②随時 ボランティア活動状況取材しHPや広報に掲載することで，市民へ周知を図る。また，市内介護福祉施設へ受入施設としての登録を推進する。
改善内容（課題解決に向けた解決策）	
①ボランティアや活動団体との情報交換や参加者からのアンケート実施により，地域介護予防活動の後継者を開拓していく。 ②介護支援ボランティアポイント制度のPR方法について検討をする。	
次年度のコストの方向性（→その理由）	
☐ 増加 ☐ 維持 ☐ 削減	

R02年度の評価（課題）を受けて、どのように取り組んだか（R03年度の振り返り）	
R02年度の評価（課題）	R03年度の取組（評価、課題への対応）
新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、介護ボランティアポイントの受入施設がなくなり、ボランティアポイント制度を実施することができなかった。今後は、ボランティア活動の場の検討が必要である。また、脳わくわくし隊（認知症予防ボランティア）に代わるボランティアの育成のために認知症予防リーダー養成教室を企画したが、新型コロナウイルスの感染拡大の影響を受け中止した。次年度、ボランティアの育成を行っていく必要がある。	介護ボランティア受入施設の意向調査を行ったが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため受入体制が整わず、ボランティアポイント制度を実施することができなかった。また、脳わくわくし隊（認知症予防ボランティア）に代わるボランティアとして認知症予防リーダー養成教室を実施した。20人のメンバーが新規養成され、サロン等に認知症予防のレクリエーション（シナプソロジー）を提供できた。活動機会を増やすためには、今後も個々のメンバーのスキルアップを含めたボランティア育成を継続する必要がある。

評価（指標の推移、今後の方向性）							
指標名	基準値（H26）	H29年度	H30年度	R01年度	R02年度	R03年度	目標値（R03）
地域介護予防講座（回）	20.00	27.00	27.00	25.00	0.00	7.00	8.00
げんき館料理教室参加述べ人数（人）	139.00	139.00	144.00	137.00	0.00	0.00	0.00
成果の動向（→その理由）							
☐ 向上 ☒ 横ばい ☐ 低下	介護ボランティアポイントは、新型コロナウイルス感染症流行下での実施が不可能となり、再開の目処が立たないため事業自体の方向性を再検討し、中止とした。 コロナ禍における制限の中でも工夫を凝らして認知症予防リーダーの新規養成が行えたが、住民主体で介護予防活動を実施していくためには、元気な高齢者が高齢者を支える活動を活性化する必要がある。 高齢者がボランティアとして活動を続けることが当事者自身の介護予防にもつながるため、生きがい支援の観点からも継続することが必要である。						
今後の事業の方向性（→その理由）							
☒ 拡大 ☐ 縮小 ☐ 維持 ☐ 改善・効率化 ☐ 統合 ☐ 廃止・終了	ボランティアポイント制度の再開に向けては受入施設を含めた制度の見直しを行う。また、認知症予防リーダーが安定した活動を行えるように、個々のスキルアップが図れるような研修や支援を定期的に実施することに加え、新規メンバーの養成も計画し実施していく必要がある。						

コストの推移						
項目		R01年度決算	R02年度決算	R03年度決算	R04年度予算	R05年度見込
事業費	計	535	10	338	678	678
	国・県支出金	153	6	110	220	220
	地方債	0	0	0	0	0
	その他	250	4	133	268	268
	一般財源	132	0	95	190	190
正職員人工数（時間数）		116.00	23.00	148.00	0.00	0.00
正職員人件費		476	93	573	0	0
トータルコスト		1,011	103	911	678	678